

本棚のすみっこ

令和元年度 第4号〔7月17日〕
港区立高松中学校 学校図書館だより
RAS ○○○○

こんにちは。RAS（リーディング・アドバイザー・スタッフ）の和田です。

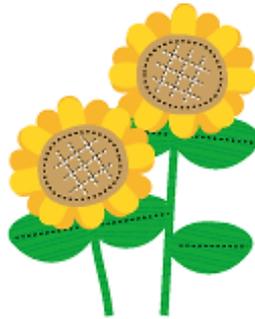
すみません

前号で、夏休み中の開放日をお知らせしましたが、どうしても調整しようのない用事が入ってしまいました。おわびして訂正いたします。すみませんでした。



《訂正版：夏休みの開放日》
8月 2日(金)
8月22日(木)
両日とも12時～16時

《開放日映画会》
8月 2日(金) 22日(木)
13時～15時
上映作品『ライフ・イズ・ビューティフル』



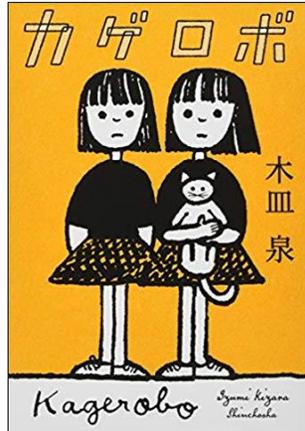
《映画あらすじ》

強制収容所に送られてしまったユダヤ系イタリア人のガイド一家。絶望と死が支配する中、母と離れて不安がる息子ジョズエのため、ガイドは嘘をつく。

「これは、ゲームなんだよ」

ゲームに勝てば、戦車がもらえる。父と息子のゲームの日々は、やがて…。

新着図書より



『カゲロボ』 木皿 泉 【913 キザ】

「あいつがカゲロボらしいよ」。最初は他愛のない都市伝説のはずだった。学校で、職場で、病院で、家庭で、街角で。カゲロボは私たちがずっと見守っていてくれるのだろうか？ それとも罰するためにいるのだろうか？ イジメに遭う中学生、ホスピスに入った患者、殺人を犯そうとする中年女性など、人生の危機に面した彼らの前に、突然現れる「それ」が語ることは…。

◇カゲロボは、本当にいるのか、いないのか。最後までわからないほうが面白いと思いながら読み進めました。その期待は裏切られましたが、自分を客観視したり肯定したりできる心の強さは、カゲロボなのかも知れないと感じました。9つの短編で構成されていますが、おすすめは「こえ」「かお」「あせ」。どれも子どものお話です。

名作 まちがいさがし

「コペル君」は近所に暮らす叔父さんが付けたあだ名です。地動説を唱えた天文学者「コペルニクス」が由来で、コペル君が叔父さんに伝えた、ある考え方を賞賛して付けられたものでした。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。



作品名はわかるかな？まちがいさがしの正解は図書室で

『ベルリンは晴れているか』 深緑 野分 【913 フカ】

1945年7月、4カ国統治下のベルリン。米国の兵員食堂で働くドイツ人少女アウグステは、恩人の男の不審な死を知り、彼の甥に訃報を伝えるため旅立つ。しかし、なぜか陽気な泥棒を道連れにする羽目になり…。直木賞候補、本屋大賞3位の歴史ミステリ。

◇終戦直後のベルリン。混沌の様子が目に見えるようです。作者は日本人なので、下調べを綿密に行ったのだと想像されます。時おり挿入される戦前戦時の描写も、市民の暮らしをそこに感じる緻密さです。

ミステリー解決の顛末については、エンターテインメント性が感じられ、評価が分かれるかもしれません。



『よのなかルールブック』 高浜 正伸 【159 ヨ】

迷ったときは、キツイほうを選ぶ。自分のことばで話せる人になる。「ありがとう」を口ぐせにする。

少しずつ下り坂の道をすすんでいる日本で、人生を生き抜くために必要なことを、50の言葉とともに紹介する。

◇楽に生きるのはたやすいけれど。面倒でもいま身につけておくとな後々の自分の在りようを誇れるようになると思います。

